＜中学校特別活動部会＞

研究主題

「自ら学び自ら考える力をはぐくむ指導内容･方法に関する研究」
ー学級活動(2)における集団や社会の中で
自己を正しく生かす能力を養う取組等を通してー

研究の概要

特別活動における学級活動(2)「個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること」は、望ましい集団生活を通して、生徒一人一人が人間としての生き方について幅広く探求し、心身の健康の増進に努め、豊かな人間性や個性の伸張を図るとともに、社会の成員として必要とされる資質や能力を培っていくものである。

社会が急激に変化する中で、生徒にかかわる諸問題も多様化し、学校だけでは解決が困難な事例が多くなってきている。集団や社会の一員としての自覚や責任感の低下等が指摘されている生徒の現状を踏まえ、学級活動(2)について、自己探求や自己の改善・向上の視点から、生徒が人間としての生き方について自覚を深め、社会の中で自己を正しく生かす能力を養えるような、個に応じた指導の在り方を追究し、研究実践を行った。

また、学級活動における校内指導体制の確立とともに、家庭や地域社会、関係機関との連携を密にした教育活動を展開し、生徒に関わる諸問題を自己のものとしてとらえ、主体的に解決する指導方法の開発を行った。

Ⅰ　研究の目的

学級活動(2)の内容は、各教科・道徳・総合的な学習の時間等の中や日常の生活指導において取り上げることが多く、各学校において、意図的・計画的に実施されていない場合が見られる。また、学級活動が「学級を単位として行われる自主的・実践的な活動」「当面する諸課題の解決を通して生徒自らが自己指導能力を養う活動」であるにもかかわらず、教師主導の活動になってしまう傾向がある。

本部会においては、学級活動(2)において、意図的・計画的な指導を実施するために、各教科・道徳・総合的な学習の時間等との関連を整理した指導計画の作成を進める。また、学級活動の特質を踏まえ、生徒が身の回りから課題を見付け、学級のリーダーを生かし、自主的・自治的に活動できる指導方法を研究していく。さらに、個に応じた指導を進めるとともに、学級担任以外の教職員や地域・関係機関の人材の専門性を活用した指導の充実を図るために、校内外の協力的な指導体制にかかわる研究を推進する。

Ⅱ　研究の方法

学級活動(2)の年間指導計画や具体的な指導内容の現状から課題を把握し、その解決のための方策について授業研究による検証を行う。その結果から、学級活動の特質を生かし、生徒が自主的・自治的に活動できる指導方法を追究する。

学級活動(2)のねらいと育てたい力を明らかにし、学級のリーダーを生かした活動計画等を作成し、授業研究による検証を行う。また、授業研究による検証を通し、学級活動の特質を踏まえた、課題解決につながる配慮・工夫を備えた活動計画を例示する。

Ⅲ　研究の内容　－学級活動(2)のねらいの達成に向けた指導方法等の工夫・改善－

1　実践意欲を高める指導の工夫

(1)　指導計画作成上の工夫

①　指導計画の作成に当たっては、学習指導要領に示されている特別活動の目標、学級活動(2)の内容、国立教育政策研究所の参考資料における学級活動(2)の評価規準を踏まえ、育てたい力を明らかにする必要がある。（図１）

図１　学級活動(2)で育てたい力（例）

学級活動(2)アで育てたい力	・夢や希望をもってたくましく生きていく力 ・自分や他者の個性を理解し、尊重することができる力 ・社会の一員としての自覚をもち、責任ある行動がとれる力 ・異性を理解し尊重できる力 ・コミュニケーションの手段を選択し、周囲の人とかかわっていく力**(実践事例1)** ・他人や社会に貢献できる力　等
学級活動(2)イで育てたい力	・心身の健康を考え、保持増進に努める力 ・危険を予測し、的確に行動できる力 ・犯罪被害について知り、犯罪被害から身を守る力**(実践事例2)** ・性的な発達に対応した適切な行動力 ・自己の健康を管理し改善する食習慣を形成できる力　等

②　自主的、実践的な態度の育成と、人間としての生き方の自覚を深めて自己を生かす能力を養うためには、それぞれの生徒が置かれた状況にも配慮し、個に応じた指導計画を工夫する必要がある。

③　少ない授業時数の中で成果を上げるためには、各教科や他領域等と関連付けること、学級活動の三つの活動領域を均等に扱うのではなく、重要と思われるものにはより多くの時間をかけて取り上げること、学級活動(2)のそれぞれの例示にかかわる指導内容を各学年で系統だて、題材を設定することが必要である。（図２）

(2) 学習意欲を高める指導の工夫

①　学級活動(2)の内容を、生徒に自己の課題としてとらえさせるために、生徒が自分たちの実態を把握するアンケート調査を実施したり、生徒自身が地域住民・関係機関へのインタビューを行ったりするなどの活動を創意工夫することが必要である。これらの活動を計画・実施するに当たっては、生徒の意見を大切に指導する。

②　学級活動(2)の指導においては、教師主導の活動になりがちであるが、生徒全員がロールプレイング等に取り組んだり、学級のリーダーを生かした活動内容を工夫したりするなど、自主的、実践的な態度を育成することが必要である。また、中学校段階では、生徒の主体的な「課題設定→実態調査等の活動→ロールプレイングなどの活動→学級での討議」といった学習活動の流れを確立すれば様々なテーマで取組が可能となる。（図３）

図２　学級活動(2)の特別活動の内容との関連及び各教科・領域との関係（例）

領域／題材	(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること。	(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること。		(3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること。	関連が考えられる各教科・領域、特別活動の他の内容（※総合的な学習の時間＝総合）
		ア　個人及び社会の一員としてのあり方に関すること	イ　健康や安全に関すること		
自己のよさをとらえる	○	◎		○	道徳
互いに理解を深めよう	○	◎	○	○	保健体育
自分の感情をコントロール	○	◎	○		道徳
給食について考えよう	○		◎		家庭科
こんなときあなたはどうしますか	○	◎	○		道徳
学級で行うセーフティ教室	○	○	◎		総合・学校行事

2　協力的な指導体制の確立

学級活動(2)の内容については、専門的な知識や技術を求められるものが多い。指導の効果を高めるためにも学級担任の指導だけではなく、養護教諭、スクールカウンセラー、学校栄養職員などの専門性を生かしたティームティーチングなどの指導が行えるよう配慮するとともに、家庭や地域との連携・協力を図ることが必要である。また、協力的な指導体制を確立するためには、協力を求める人材の決定や事前の打ち合わせなど指導体制を充実させることも必要である。（図４）

3　評価の充実

(1) 観点別評価の実施

学級活動(2)ではぐくみたい力を一人一人の生徒が身に付けるためには、各活動における、各観点の評価規準を明確にし、学習の到達度を適切に評価することが大切である。また、活動の場面において、四つの観点のうち、どれを中心に評価するかを明確にして、指導に当たるとともに、評価結果を基に個に応じた指導を充実させることが必要である。

さらに、自ら学ぶ意欲や問題解決の能力、個性の伸張などに資するよう、個人内評価を工夫することが必要である。

(2) 評価を生かした指導の改善

学級担任は、生徒の評価が評価のための評価に終わることなく、評価結果を生かして、後の指導を改善する必要がある。生徒個々の成長や学級集団の発達はもとより、指導内容、指導計画等の評価を循環的に繰り返し、結果を次の活動場面に生かすことで、学級活動の充実・改善につなげていく。（図５）

図３　生徒の課題意識をはぐくむ活動の流れ（例）

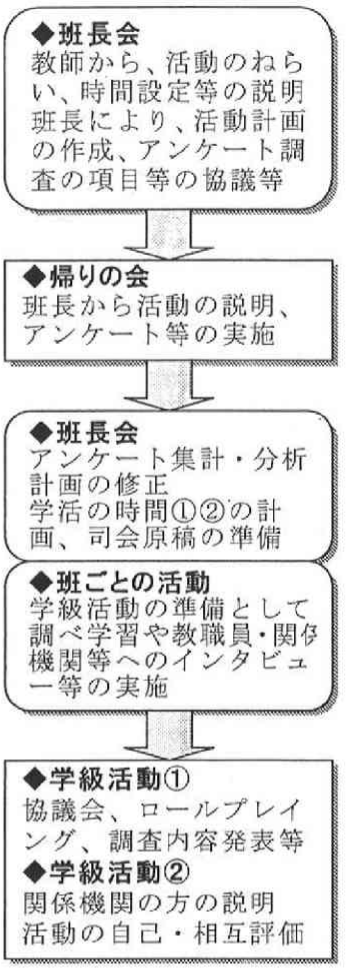
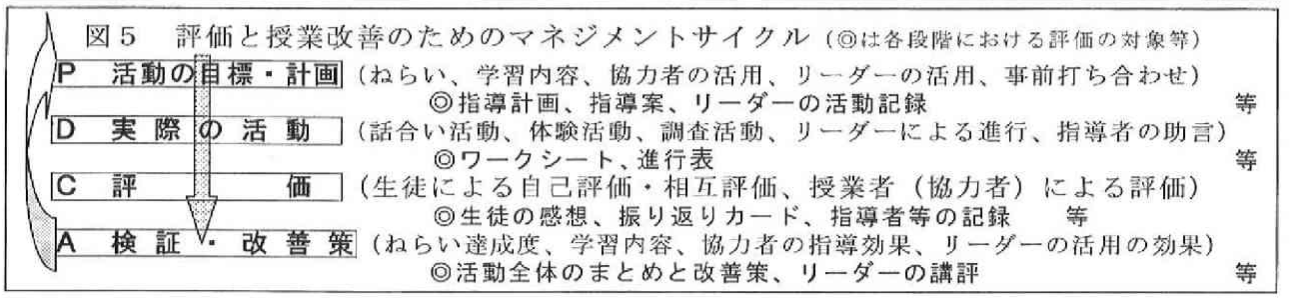


図４　学級活動(2)の活動におけるティームティーチング支援者の具体例

	学級活動(2)の内容	ティームティーチング支援者
ア 個人及び社会の一員としての在り方に関すること	(ア) 青年期の不安や悩みとその解消 (イ) 自己及び他者の個性の理解と尊重 (ウ) 社会の一員としての自覚と責任	スクールカウンセラー、養護教諭、卒業生、保護者、児童民生委員、地域住民　等
	(エ) 男女相互の理解と協力	養護教諭、家庭科教諭、保護者　等
	(オ) 望ましい人間関係の確立	保護者、地域住民　等
	(カ) ボランティア活動の意義の理解	ＮＰＯ法人、福祉施設の職員　等

	学級活動(2)の内容	ティームティーチング支援者
イ 健康や安全に関すること	(ア) 心身共に健康で安全な生活態度や習慣の形成	警察署・少年センターの警察官 児童民生委員、スクールサポーター等
	(イ) 性的な発達への対応	養護教諭，保健体育科教諭　等
	(ウ) 学校給食と望ましい食習慣の形成	学校栄養職員、養護教諭、家庭科教諭　等

図５　評価と授業改善のためのマネジメントサイクル（◎は各段階における評価の対象等）



4　学級活動(2)の活動内容例

学級活動(2)は、教師主導の活動になりがちであることから、いかに、生徒の主体的・意欲的活動とできるかを工夫する必要がある。ここでは、研究内容の１から３を踏まえ、具体例を示すものとする。

■　具体例１　ア　（ア）青年期の悩みとその解消

1　活動名　第２学年「自分の感情をコントロール」

2　活動の目標

(1) 青年期特有の共通した不安や悩みに気付き、その解決に向けて、前向きに努力する態度を養う。
(2) 青年期特有の不安や悩みを学級の課題として話し合うことで、諸課題に自治的に協力して解決できる学級を実現する。
(3) 自己の不安や悩み等を解決する方法等を身に付ける。

3　活動の概要

本活動は、個々のもつ青年期特有の不安や悩みを学級の問題として取り上げ、今、自分が何をしなければならないか、友だちに何ができるか考える学級活動である。班ごとに不安等を表すスキットを作成し、解決のためにどうすべきか皆で意見を交換する。まとめには、スクールカウンセラー（以下「ＳＣ」）に「ストレスマネジメント」の講話を実施する。

4　活動の流れと指導の工夫　※灰色の部分は学活の時間で実施した活動

班長会から活動の流れの説明。自分の悩み・不安のアンケート調査を実施する。 → 班長会は、アンケートを集計。結果を受け、班ごとにスキットを作成する。 → 班ごとに作成したスキットを発表する。発表後、解決策を話し合う。 → まとめとして、ＳＣから「ストレスマネジメント」の講話を聞く。

◎活動内容の工夫

- 質問項目は、ＳＣに相談したり、少年センターからの相談内容等のデータを参考にしたりする。
- スキットは、悩み、解決策が分かるものを考える。
- 担任、副担任等により見本となるものを示す。
- 司会生徒の進行により進める。
- 自己・相互評価カードを配布し、記入させる。

◎指導体制の工夫

調査用紙作成からＳＣが助言を行う。班でのスキット作成では副担任・養護教諭等の協力を得る。少年センターから情報提供を得る。

5　評価

(1)　自己の不安や悩みに気付くことができたか。
(2)　不安や悩みを解決していくための方策を考えることができたか。
(3)　友達の不安や悩みに対して協力して解決していこうという意識が高まったか。

■　具体例２　ア　（イ）自己及び他者の個性の理解と尊重

1　活動名　第２学年　「自己のよさをとらえる」

2　活動の目標

(1) 学校生活を学習・生活の両面から振り返り、自己のよさを多面的にとらえる。
(2) 他者との情報交換によって知り得た自己のよさを今後の生活にどう生かしていくか具体的に考え、実現させようとする。
(3) 友達のよさを多面的にとらえ、他者の個性を理解し、尊重する。

3　活動の概要

本活動は、自分の存在に価値を見いだせずに、目標を見失いがちな２年生の時期に、自他のよさを見つめるための活動である。アンケート調査により、学級の悩みの傾向を把握し、互いのよさをいかに伸ばすか班単位で協議する。また班内では相互評価を行う。アンケートの分析や活動のまとめにおいてＳＣの協力を得る。

4　活動の流れと指導の工夫

帰りの会の時間に、「中学校生活を振り返る」アンケートを実施する。 → 班長会で、アンケートの集計・分析をする。班活動の進め方について話し合う。 → 班長からアンケート結果の発表。班会議で友だちのよいところを出し合う。 → 自己のよさを今後の生活に生かす方法等について担任・ＳＣのまとめを聞く。

◎活動内容の工夫

- アンケート用紙は班長会で作る。
- 自分の性格や行動のよさを多面的にとらえるように意識させる。
- 分析の仕方については、ＳＣから助言を受ける。
- 友達のよさを多面的にとらえるように助言する。
- 班長が中心に進行する。
- 自己のよさをとらえ直すよう、考察の時間を多くとる。

◎指導体制の工夫

ＳＣ、養護教諭にも協力を得て、自己のよさを前向きにとらえられるようにしていく。

5　評価

(1) 自己のよさを見付けるため、積極的に活動に取り組めたか。
(2) 自分らしさ、自己のよさを知ることができたか。
(3) 友達のよさを見付け、他者の個性を理解し、尊重していこうとしたか。

■ 具体例３　ア　（エ）男女の理解と協力

１　活動名　第３学年　「互いに理解を深めよう」

２　活動の目標

(1) 一人一人の性についての情報の受け取り方が違うことをとらえる。
(2) 自己の行動を振り返らせる中、男女が身体面・精神面の理解を深め、尊重し、協力しようとする態度をはぐくむ。

３　活動の概要

本活動は、男女相互の理解を深め、互いに協力し、尊重し合うための学級活動である。学級活動の時間に、性についての情報の受け取り方については個人差があることを考えさせる活動を実施する。活動の導入期に生徒の意識調査を実施し、自己の課題としてとらえさせる。養護教諭は事前準備からかかわる。

４　活動の流れと指導の工夫

学活の時間に「性の情報の氾濫」についての意識調査を行う。

→ 班長が集まり、意識調査の集計と討議の進め方について話し合う。班単位で性非行の実態を調べる。

→ 性情報の氾濫を題材に、学級でディスカッションをする中で男女のとらえ方の違を明らかにする。

→ 養護教諭からの総評・講話と担任のまとめを聞く。

◎活動内容の工夫

- ●アンケートの項目については、学級のリーダーが実態を踏まえ設定する。
- ●集計結果は、班長等が模造紙やパワーポイント等でまとめる。
- ●分析は、養護教諭の協力を得る。
- ●担任、養護教諭が２つに分けた集団に参加し、司会の補助を行い、流れをコントロールする。

◎指導体制の工夫

養護教諭が事前の準備段階から参加し、協議の進め方等を助言する。当日は、討議内容を踏まえ、総括をする。

５　評価

(1) 性についての情報の受け取り方には、個人差があることについて理解することができたか。
(2) 男女の身体面・精神面の理解を深め、協力し合い、生活していこうという態度がはぐくまれたか。

■ 具体例４　イ　（ウ）学校給食と望ましい食生活の形成

１　活動名　第１学年　「給食について考えよう」

２　活動の目標

(1) 学校給食の意義や健康に配慮した食生活の大切さを理解するとともに、自己の食生活の改善に生かそうとする態度を養う。
(2) 食べ物や学校給食にかかわる人々に感謝の気持ちをもたせる。
(3) 食生活について学ぶ中、自分の健康保持について考えさせる。

３　活動の概要

本活動は、日常の給食について振り返り、調理をしてくださる方への感謝の気持ちをもてるようにしていく活動である。その上で、栄養の偏りのない食事について、自分の食生活を考えるようにしていく。給食委員等の生徒を中心にし、栄養士・調理師の協力を得ながら活動を進めていく。調理作業のＶＴＲ等も活用し、臨場感のあるものにしていく。

４　活動の流れと指導の工夫

班長会の提案で、給食の学級の残菜調査と意識調査を給食委員中心に行う。

→ 班長、給食委員等が残菜調査・意識調査の集計と討議の進め方について話し合う。

→ 調理作業のビデオを見て、調査結果を基に班の給食にかかわる課題の解決策を班単位で話し合う。

→ 班での話合いの結果を新聞としてまとめ、他学級や保護者等に配布する。

◎活動内容の工夫

- ●アンケート項目作成については、学校栄養士等へ給食委員等が助言を受けに行く。担任は活動の流れを整理する。
- ●集計結果は、学校全体の結果と比較する。
- ●班長会に学校栄養士等も参加する。
- ●次回の学活に向けて班会議の進め方シートを作成する。
- ●担任、学校栄養士等が各班の話し合いに参加し、司会の補助を行い、流れをコントロールする。

◎指導体制の工夫

学校栄養職員、調理員、養護教諭が事前の準備から参加し、生徒に助言する。当日は、班会議に参加し助言する。

５　評価

(1) 学校給食や食生活に関心をもち、話合い等に意欲的に取り組もうとしている。
(2) 食べ物の大切さを自己の問題と受け止め、食生活の改善に向けてより良い方法で実践できる。
(3) 学校給食を通して、自分の健康保持に努めようとしている。

指導事例１　－「こんなときあなたならどうしますか」内容（２）ア－

５　指導事例１　－活動名「こんなときあなたならどうしますか（１学年）」内容（２）ア－

■事例の概要

本事例は「良くないことだと思っても断れない」「事の善悪の判断なしに友達に合わせる」という人間関係を振り返らせ、「望ましい人間関係づくり」「断るにあたっての相手の受け止め方に配慮した表現力」を身に付けることを目標とした。

学級活動の１時間目においては、「タスク（指示課題）」を用いたロールプレイングを行っている。セリフの決まっているロールプレイングとは違い、「タスク」を達成させるために自分の言葉で考えることで、より実践的に考えられるメリットがある。また、２時間目では、望ましい人間関係について、班で協議するとともに、自己評価を行っている。

活動の始めにおいては、実態調査を行うとともに、自分の経験を班内で出し合った。話合いを受けて、班長会で「タスク」を作成した。

(1) 活動の目標

・　様々な人間関係の在り方について考えさせる中で、人と人の望ましい関係を確立していく態度や能力をはぐくむ。

・　場面や状況等に応じて、適切な判断をして、人間関係等に配慮しながらも、悪い誘い等に対してはき然たる態度で断るなどの自己表現力を身に付ける。

(2) 本活動の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○　活動を通して、主体的に自己の課題に取り組むことができる。 ○　活動を通して学んだことを学校生活や社会の中で積極的に自己を生かそうとしている。	○人との接し方について自己の課題を見いだすことができる。 ○自己の課題についての解決方法を考え、自己判断している。	○コミュニケーションの手段を選択し、周囲の人とかかわっていくことができるようになる。	○相手の立場等を考えて接することの大切さを理解している。 ○人と人がよりよく接する方法について理解している。

(3) ねらいの達成のための工夫

①実践意欲を高める指導の工夫

タスクを利用したロールプレイングを行う。

タスクは、せりふが決まっていないので生徒の考えを制限しない。また言葉だけでなく表情や行動（逃げる、顔を背ける等）で表現することもできる。また、ペアから班、学級と集団の規模を大きくしていく中で集団の一員としての在り方を考えたり、個人の意見が反映される集団を体験したりする機会とする。

ロールプレイングの実施後は、班員全員で活動を振り返るとともに、望ましい人間関係や適切な断り方等について、本音で話し合う。

②指導と評価の一体化

ワークシート、振り返りカードを活用し、生徒一人一人の状況や課題を知る。また、個別の課題に対応した面談等の機会を設ける。

※班での話し合いで使用したシート

●班活動ワークシート１　班

1　班で「一番よい断り方だ」と決めた意見を書いてください。
[　　]

2　他の班の発表を聞き、「いい考えだ」と思ったものを１つ書いてください。
[　　]

3　今日のロールプレイングから、誘いを絶対に断るなら、どう表現するかを書いてください。
[　　]

4　友達を思いやりつつ断るならどうするか書いてください。
[　　]

5　あなたが友達にしてあげられることは何か書いてください。
[　　]

(4) 指導の実際

◆事前の活動

活動の場	活動の主体	生徒の活動	指導上の留意点
放課後	学級委員 各班班長	1　学級委員・班長は、担任から活動のねらいや活動計画案等の説明を受ける。 2　班長が活動計画、活動内容について協議する。 3　生徒の実態把握のためのアンケートの項目を協議し、決定する。	○　アイディアが出ないときは普段の生活を振り返らせたり、新聞のニュースなどを紹介したりする。 ○　項目については、生徒の悩み・課題が把握できるようなもの、資料にしやすい形式を考えさせる。
帰りの会	全員	4　班長が活動のねらい等を説明する。 5　アンケート調査の実施	○　説明原稿をあらかじめ確認し、分かりやすいものとなるよう指導する。
放課後	学級委員 各班班長	6　アンケートを集計し、資料化する。 7　分析を生かしタスクを作成する。 「断らなくてはいけないのだけれど断るのが難しい」というケースについて身近な例、ニュースから考える。	○　資料は、問題の本質が把握しやすい、要点を押さえたものにする。（プリント、模造紙にまとめる） ○　タスクの内容は、生徒が意欲をもち活動できるものに練り上げる。

◆学級活動［第１次（本時）］

生徒の活動	指導上の留意点
1　班長会からアンケートの説明と本時の流れの説明。 2　仲のよい生徒同士でペアになり、タスクを行う。 タスク１→「あなたは家に帰りたくありません。友達に門限を過ぎてもあなたと遊ぶように説得しなさい。」 タスク２→「友達の誘いを断りなさい。」 3　生活班でよい断り方等をまとめる。 4　新しい小グループを作り、各生活班でまとめたものを発表する。その発表内容から自分の考えをまとめる。 5　教師からの本時のまとめを聞く。	○　アンケート結果は事前に黒板に掲示しておく。 ○　生徒一人一人が目的意識をもち、意欲的に実施しているかどうか、巡回し、評価する。 ○　新しい小グループには、各生活班の班員が必ず一名がいるように配慮する。 ○　ワークシートを配布し、生活班・小グループでの協議内容等を記入させる。 ○　次時につながるようにまとめる。

◆学級活動［第２次］

生徒の活動	指導上の留意点
1　各生活班長から、第１次の協議内容を発表する。 2　各班の発表を基に学級協議を行う（司会は学級委員が行う）。 3　担任の本活動全体のまとめの話を聞く（相手の状況を理解した上で、自分の気持ちをきちんと伝えることの大切さについての話）。 4　生活指導担当教諭から中学生が巻き込まれがちな事件や周辺地域で注意すべきことについての話を受ける。 4　ワークシートの自己評価、相互評価欄に記入する。	○　班の協議内容を事前に板書させる。 ○　最初は、ブレインストーミングを取り入れ、なるべくたくさんの意見が出されるよう進行させる。 ○　自分として取り組む課題を明らかにさせ、ワークシートの自己評価欄等に記入させる。

(5) 努力を要する状況への手だて

担任は自己評価表（振り返りカード）で評価を「C」と判断した生徒に対して、コメント欄を用いて励ます。また、教育相談等を利用し生徒の課題や状況理解に努める。状況に応じて、学年の教員やスクールカウンセラー等と連携を取りつつ指導に当たる。

(6) 生徒の変容

第１次のタスクの場面では、「はっきり断らない」「逃げる」等の対応の様子があった。また、まとめ段階では「気まずくならないように結局付き合う。」等の意見が挙がった。しかし、第２次の後では「相手の気持ちを考えながら、断りたい。」「相手のそうしたい理由を聞くことから始める。」と自己評価欄に記入するなど多くの生徒に変容が見られた。

6　指導事例２　―活動名「学級で行うセーフティ教室（２学年）」　内容（２）　イ　－

■事例の概要

本事例は、平成１６年度から始まった「セーフティ教室」を学級活動(2)として計画・実施したものである。

今、深刻化しつつある青少年犯罪等について、まず、班ごとに、東京都や地域の少年非行等の実態について調査活動を行い資料化した。そして、その資料を基に、友達から「飲酒」を誘われるロールプレイングのシナリオを班長会で考えた。

学級活動の時間では、生徒に飲酒の誘いをどのように断るかを、民生委員や保護者の協力を受け、ロールプレイングを見たり、演じたりする中で考えさせた。また、まとめの段階で少年センター指導員の方からアドバイスをもらうことによって、犯罪から身を守るためには「断る勇気」が必要であるということを理解させた。

(1) 活動の目標

- 自ら学び、自ら考える活動を通して、犯罪の被害から身を守る態度や姿勢を養う。
- 青少年の健全育成にかかわる諸問題を自分のこととしてとらえ、自主的に実践する力を身に付ける。
- 健全な生活を送ることの大切さを知り、その実践方法について理解する。

(2) 本活動の評価規準

関心･意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○生き方についての自覚と責任をもち、心身の健康の保持増進に努め、積極的に自己を生かそうとしている。	○自己の課題を見いだし、自他の尊重に基づく健全な生活態度や適切な行動について判断できる。	○社会における健全育成上の諸問題を自分の課題として受け止め、その解決に向けてよりよい方法で自主的に実践することができる。	○犯罪被害の状況を調べることで、健全な生活を送ることの大切さを知り、犯罪や非行から自らを守る方法等について理解している。

(3) ねらいの達成のための工夫

① 実践意欲を高める指導の工夫

- 「セーフティ教室」の内容を、生徒主体の活動の中で取り上げ、考えさせる。
- 導入の段階で、少年犯罪についての実態調査に生徒自ら取り組み、関心を高める。
- 生徒の取材を基にロールプレイングのシナリオを考えさせ、全員で取り組むことにより、自分自身の問題としてとらえさせる。

② 協力的な指導体制の工夫

－ティームティーチングの実施－

- 事前に生徒が少年センターを訪問し、取材活動を進めた上で、指導員や主任児童委員と協力して授業を展開させる。

③ 指導と評価の一体化

取材レポート、ロールプレイングのシナリオ作り、振り返りカードなどを活用し、活動ごとに評価を行うことによって、生徒活動の状況把握を行う。また、次の活動への意欲を喚起させる。

※各自に作成させたシナリオのフォーマット

学級活動「悪い誘いを断る」ワークシート

★空欄に自分のシナリオを作ろう。

Aさんの学校では、毎年合唱コンクールが盛んで、Aさんのクラスはみごと最優秀賞を勝ち取ることができた。その「打ち上げ」をしようという話になり、Aさんは興味本位で行ってみることにした。場所は学校近くのファミリーレストラン。そこには先輩たちもいて、部活の先輩がAさんたちの方へ寄ってきた。

先輩：あれ、随分、盛り上がっているじゃないか。

Aさん： ＿＿＿＿＿＿＿＿

先輩：こういう時にはビールで乾杯だよ、飲めよ。

Aさん： ＿＿＿＿＿＿＿＿

先輩：大丈夫だよ、見つからないようにやれば。少しだけならいいじゃないか。

Aさん： ＿＿＿＿＿＿＿＿

先輩：わざわざ先輩が来ているのに、断るとは失礼だ。

Aさん： ＿＿＿＿＿＿＿＿

(4) 指導の実際

◆事前の活動

活動の場	活動の主体	生徒の活動	指導上の留意点
放課後	学級委員 各班班長	1　学級委員・班長は担任から活動のねらい等について説明を受ける。 2　班長が活動計画等を立てる。 3　帰りの会で学級全体に提案する内容・資料等についてまとめる。	○　生活指導担当教員が青少年非行の現状について説明する。 ○　学級のリーダーが主体的に課題をもてるよう進行する。また、協議では、生徒の本音を大切に支援する。
帰りの会	全員	4　学級委員が活動のねらい等を説明する。（作成した資料の配布）	○　生徒の意欲を高める内容になるよう指導する。
放課後	全員	5　班のテーマ、調査方法を班会議で協議し、決定する。 6　班ごとに調べ学習を行う。 （調査場所…警察署・コンビニ等） 7　発表の準備を行う。（資料作成等）	○　生徒の活動にふさわしい課題を考えさせる。 ○　インタビュー等を関係機関の人にする場合は、連絡・調整を行い、生徒の活動を支援する。
放課後	学級委員 各班班長	8　調べ学習の進行状況の報告を行う。 9　学級活動（第１次）の役割分担、進行のための原稿作りを行う。	○　学級活動（第１次）の活動内容について、学級のリーダーに共通意識をもたせる。

◆学級活動［第１次］

生徒の活動	指導上の留意点
1　学級委員から本時のねらいと流れを説明する。 2　各班から青少年の非行等に関する調査内容を報告する。 3　学級全体で現在の少年犯罪の傾向等について、意見を出し合い、なぜ発生するのか等についてまとめる。 4　第２次に行うロールプレイングのシナリオ作りを行う。（友達等からの悪い誘いを断る内容のシナリオ）	○　生徒一人一人が目的意識をもち、意欲的に実施しているかどうか評価する。 ○　単に調査結果、事例の発表にするのではなく、自分の問題、地域の問題としてとらえるよう助言する。

◆班長会議（放課後）

生徒の活動	指導上の留意点
1　各班での協議を踏まえて、第２次で行うロールプレイングの内容を決定する。（ロールプレイングのシナリオの作成をするために、少年センターの警部補に助言を得る。） 2　第２次の準備を行う。また、支援者となる地域の主任児童委員、保護者等との打合せを行う。	○　常に「自分だったらどうするか」という視点でロールプレイングの内容を検討するよう助言する。 ○　班長会出席者全員が次時の活動に対する共通意識をもつよう支援する。

◆学級活動［第２次（本時）、第３次］

生徒の活動	指導上の留意点
1　ロールプレイングを見る。 2　各自、断り方をシナリオシートに記入する。 3　班ごとに誘い役・断り役・観察役を交代しながら行う。 4　ロールプレイングのアドバイスを含め、講師（少年センター指導員）の話を聞く。 5　生徒・保護者・地域関係者から感想・意見を聞く。 6　本時の活動を振り返り、自己評価を行う。	○　主任児童委員と協力してロールプレイングの見本を見せる。（非主張型・攻撃型・主張型） ○　保護者・地域の方に自らの思いを語ってもらう。（事前に依頼） ○　自己評価表（振り返りカード）に本時の自己評価を記入する。
7　「犯罪から身を守る」ための意見交換（分かったことや気になること。） 8　学習を振り返って、自己評価表に記入する。 9　感想や礼状をお世話になった関係諸機関に送る。	今回の学習を通して、一番大切なことは「後のことをしっかり予想した上で、それが正しいかどうかを判断して行動する」ことだとわかった。これからは正しい判断力をもち、「断る勇気」のある人になりたいと思う。

(5) 努力を要する状況への手だて

自己評価表に、担任からのコメント欄を設け、それぞれの生徒がおかれた状況の個人差に配慮し、個に応じた指導・助言を行う。

(6) 生徒の変容

学級活動での自主的な活動を通して、自らの心身の健康や安全についての理解を深め、心身ともに健康で安全な生活を送ろうとする意欲が向上した。

Ⅳ　研究の成果と課題

1　研究のまとめ

本研究は、学級活動(2)の「生徒一人一人が人間としての生き方について幅広く探求し、心身の健康の保持増進に努め、豊かな人間性や個性の育成を図るとともに、社会の成員として必要とされる資質や能力･態度を培うための最も基礎的なものである。(学習指導要領解説―特別活動編―)」という面について、他教科・他領域、総合的な学習の時間、学校行事などで行われる類似・共通の活動・指導との違いを意識して行った。

また、学級活動の特質である学級を単位として行われる生徒の自主的、実践的な活動と、そこにかかわる、校内だけでなく家庭・地域社会・関係機関との連携を図る指導体制の在り方を検討し、実践研究を行ってきた。以下、その成果と課題をあげる。

(1) 教師主導に陥りやすい学級活動(2)において、リーダーを生かした活動計画を作成、実践することにより､学級で行う諸活動が生徒自身で練り上げられたものとなった｡その結果、生徒一人一人に育てたい力をはぐくむことができた。

(2) 生徒自身に自分や学級・地域社会の抱える問題を見つめさせるとともに、学級集団、班などの小グループ集団内において協議させることが自主的･自治的な活動を活性化させた。また、リーダーの進行による活動で、他の生徒も自主的な活動を行っているという意識をもち、学級活動の特質を踏まえることができた。

(3) 学級活動(2)は、指導内容において専門的な知識や技術を求められるものが多い。学級担任だけでなく、積極的に養護教諭、学校栄養職員などの専門性を生かした指導が行えるよう工夫することや、家庭・地域・関係諸機関と連携･協力を図れるよう、指導体制を確立することが、効果的であると確認できた。

(4) 年間指導計画における学級活動(2)の位置付けが明確になり、指導の充実につながった。

(5) 個に応じた指導と学級活動(2)の活動の流れの基本的な考え等の研究を行うことにより、他教科・他領域、総合的な学習の時間や学校行事などとの違いを明らかにできた。

(6) 昨年度の研究「自主的、実践的な態度の育成を図る指導の充実と評価方法の工夫・改善」を参考に指導と評価の一体化に努めた。

(7) セーフティ教室を警察等に任せきりにすることなく、生徒が主体的に取り組む内容のものとすることができた｡結果として､非行防止等に対する意識を高めることにつながった。

2　今後の課題

特別活動の目標である「…集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ためには、学級活動(2)にかかわる活動を活性化させることが不可欠である。今後も、学習指導要領の基準性を踏まえ、各学校における意図的・計画的な実践及び活動内容の充実を図ることが必要である。

また、特別活動のねらいを確実に達成するためには、生徒の主体的・自治的な活動を継続的に実施していくことが大切である。教師が学級活動の特質を理解し、その効果を上げるためにも、生徒の課題意識をはぐくむ活動や教師・保護者・地域社会・関係機関等が協力し合う活動等を今後も改善・充実していくことが望まれる。